

# ナシの着果不良樹に対する新梢管理法

## 1 情報・成果の概要

### (1) 背景・目的

2014年は、ナシの交配時期の降霜により、結実不良園が見られた。着果数が激減したナシ樹では、短果枝から新梢が乱立し、翌年の花芽確保が困難となる恐れがある。そこで、次年度以降の着果数確保につなげる新梢管理の方法について検討した。

### (2) 情報・成果の要約

着果不良による新梢多発樹に対する新梢管理としては、摘心処理が、誘引処理に比べ花芽の確保や果台の維持に効果が高く、最も有効な手段と考えられた。

## 2 試験成績の概要

### (1) 処理方法

4品種‘新甘泉’‘なつひめ’‘おさゴールド’‘王秋’の着果不良樹に対して、摘心区、誘引区、無処理区を設定し、新梢処理を行った(図1)。

	新梢管理
摘心区	6/10, 6/30, 7/14に短果枝から発生した新梢を基部2~3cm残してせん除
誘引区	7/14に短果枝から発生した新梢を誘引
無処理区	新梢処理を行わない

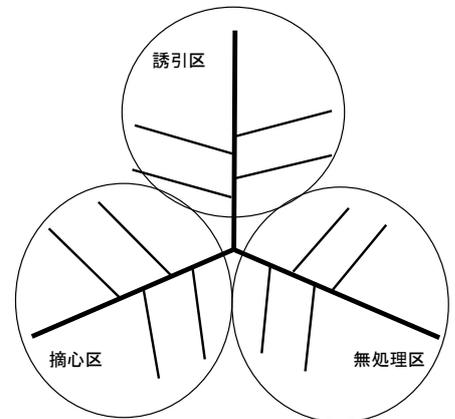


図1 ‘着果不良樹’に対する新梢処理方法

### (2) 調査方法

- 1) 6月26日、10月28日に短果枝の果台基部の太さを測定した(1区20果台)。
- 2) 10月29日に短果枝の果台の花芽数、新梢長を測定した。

### (3) 調査結果

- 1) 短果枝から発生する新梢は、誘引区、無処理区が多く、摘心区で少ない傾向であった。
- 2) 短果枝果台の肥大は、全ての樹で摘心処理により抑制された。
- 3) 花芽着生率は、‘新甘泉’を除き摘心区が高かった。

表1 結実不良樹に対する新梢管理の違いが短果枝の生長に及ぼす影響

品 種	処 理	新梢長 (cm)	新梢本数 (本)	果台肥大量 <sup>z</sup> (mm)	花芽数 (個)
おさゴールド	摘 心	4.1	0.1	1.2	0.9
	誘 引	60.3	1.1	3.1	0.3
	無 処 理	69.2	1.2	4.9	0.5
なつひめ	摘 心	3.1	0.1	0.5	0.9
	誘 引	71.2	1.1	2.6	0.4
	無 処 理	70.3	1.1	3.8	0.2
新甘泉	摘 心	1.8	0.1	0.2	0.2
	誘 引	72.8	1.0	2.6	0.1
	無 処 理	79.3	1.0	3.9	0.2
王 秋	摘 心	0.0	0.0	0.3	2.0
	誘 引	69.2	1.2	2.4	0.4
	無 処 理	62.0	1.2	2.2	0.4

Z: (10月28日の果台径) - (6月26日の果台径)

### 3 利用上の留意点

(1) この処理は着果数が通常の5割以下となった樹に対して行った処理である。過去の試験では、果実肥大には誘引処理の効果が高いことが認められている。過度な摘心処理は、樹勢を弱めるので、着果数や新梢の発生程度に応じた処理が必要である。

### 4 試験担当者

〔果樹研究室 主任研究員 杉嶋 至  
室 長 池田隆政〕